

前回の振り返り

会議名 令和6年度 第1回 日野市子ども・子育て支援会議 専門部会（保育園関係）

日 時 令和6年9月8日（火）午後6時30分～午後8時30分

場 所 日野市子ども包括支援センターみらいく 3階 多目的室

出席者 委 員 田中部会員 土屋部会員 山田部会員 宮越部会員 村田部会員

関係者 みなみだいら保育園保護者 A みなみだいら保育園保護者 B

おおくぼ保育園園長 みなみだいら保育園園長

事務局 木暮保育課長 飯野課長補佐 川井主事

欠席者 なし

傍聴者 4名

1. 日野市子ども・子育て支援会議専門部会について

- (1) 日野市子ども・子育て支援会議条例第9条に基づき、専門的な事項を調査審議するため専門部会を置く。
- (2) 日野市子ども・子育て支援会議条例施行規則第7条に基づき、条例第9条に規定する専門部会は、支援会議から付託された専門的な事項について、調査審議するものとする。」となっており、この度、公立保育園に関して検討すべき事項があり、令和6年8月21日の第3回日野市子ども・子育て支援会議にてご審議をいただきまして、専門部会の設置についてご承認いただいた。
- (3) 設置の目的
 - ① 市立保育園全体のあり方と各園の今後の方向性について検討すること。
 - ② 検討結果を踏まえて、個別施設計画を策定すること。
- (4) これまでの経緯と個別施設計画の策定
 - ① 行財政改革大綱を策定し、市民サービス向上及び効率化に取り組み、平成26年度、30年度、令和4年度に、公立保育園3園の民営化
 - ② 第6次日野市行財政改革大綱実施計画（計画期間＝令和5年度～令和9年度）「未就学児数の減少傾向を見据えての保育園全体のあり方の検討、市立保育園の民営化等の方針の再検討・推進」とし、引き続き検討
- (5) 「日野市公共施設等総合管理計画」では、公共施設配置の最適化を図り、効果的かつ効率的な整備と管理運営についての方針を示、総合管理計画に基づく、公立保育園を始め子育て施設の個別施設計画（案）を令和6年11月ごろまでに策定する。
 - ① 総合管理計画において定められた公共施設の総量縮減を踏まえること。
 - ② 日野市の保育を取り巻く社会状況や今後の課題を考え、とりわけ公立保育園に求められる役割を整理し、専門部会でご意見をいただきながら、具体的方針・計画を示した個別施設計画（案）を策定する。
- (6) みなみだいら保育園の保護者の参加について
個別計画を設定するにあたり、特にみなみだいら保育園は、隣接する6号棟跡地に開設する

予定の保育園へ移動が必要になり、開設後の運営主体は民間保育園への変更も含めて検討していくため、当園の保護者にもご参加いただいた。

(7) 全体スケジュール

令和6年8月21日(水)	第3回子ども・子育て支援会議	・専門部会の設置について協議・決定
令和6年9月10日(火)	第1回子ども・子育て支援会議専門会議	・日野市の保育を取り巻く現状と課題の共有 ・今後の公立保育園のあり方を検討
令和6年10月8日(火)	第2回子ども・子育て支援会議専門会議	・個別施設計画について ・各公立保育園の方向性について
令和6年10月21日(月)	第4回子ども・子育て支援会議	・専門部会での検討結果を報告。意見聴取。
令和6年12月19日(木)	第5回子ども・子育て支援会議	・個別施設計画(素案の案)を説明。意見聴取。
令和7年2月	・個別施設計画(案)のパブリックコメント	
令和7年3月	・個別施設計画の策定	

2. 民営化と行財政改革の経緯について

- (1) 日野市では、厳しい行財政の状況を踏まえまして、平成8年から6次にわたり行財政改革に取り組んでいる。
- (2) 日野市立みさわ保育園は、令和元年9月に民営化することを決定したが、市場調査の結果、事業者の新規参入意向が減退しており、みさわ保育園に関しては、公募による民営化は難しい状況である。一方で、一定の保育需要は見込まれる中で、周辺には教育施設や児童福祉施設が集まっており、地域的に幼保小等の連携を行いやすい環境となっていることから、みさわ保育園については、民営化を行わず、市の東側の公立保育園として、保育所型認定こども園化等の実施に向けて検討を進めていくこととした。

Q1：現在、民営化を検討している保育園はありますか。

A1：みなみだいら保育園は民営化を含めて検討している。他の保育園については、今後検討していくとしております。

Q2：次回、民営化の進め方や評価などについて振り返りたいと思いますがよろしいでしょうか。

A2：第2回の専門部会で資料の提供と説明をさせていただきます。

Q3：資料3の「個別支援計画構成案」中に「子育て支援施設の最適化方針」と書いてあるが、この場合の最適化というのはどういうイメージで捉えるのか。

Q3：施設の類型ごとの特徴や今後求められる役割や課題などを踏まえ、日野市のサービスとして最も適したあり方を最適化と表現している。

3. 日野市の保育を取り巻く現状と今後

- (1) 「未就学児人口」は、令和6年度の時点で7,955人。平成28年度の9,543人をピークに、8年間で約1,500人の減少
- (2) 全年齢で減少傾向が見られるが、特に0歳児人口の落ち込みが顕著
- (3) この間、日野市の人口全体は増加傾向であったが、一方で未就学児の人口は減少傾向で、「日

野市の人口ビジョン」などによると、この傾向はより一層進むことが見込まれている。

- (4) 「保育所への申込人数」（保育ニーズの推移）は、未就学児人口のピークであった平成 28 年度以降も増加傾向が続いており、令和 2 年度頃より横ばい。一方、保育所への申込率は増加傾向が続き、令和 5 年度の時点で 50%を超え、令和 6 年度時点で 52.3%である。
- (5) 令和 7 年度から令和 11 年度の人口推計（0 歳から 5 歳まで）、各年齢で減少傾向が推測され、令和 6 年度は合計 7,955 人、令和 11 年度は、7,132 人になっており、5 年間で約 700 人が減少することが推測（令和 6 年 9 月 8 日現在の推計値）
- (6) 令和 7 年度から令和 11 年度の教育・保育の「量の見込み」は、1 号児（満 3 歳以上で、保育の必要性がない子ども）や 2 号児（3 歳以上で、保育の必要性がある子ども）の教育希望が強い児童については、減少傾向にある。3 号児（満 3 歳未満で保育の必要性がある子ども）の 2 歳は、増加傾向にある。未就学人口全体は減少傾向にあるため、保育所への申込人数とは、長期的に見れば減少していくことが推測されるが、保育所への申込率自体は上昇傾向にあるので、動向については慎重に注視していくことが必要である。（※数値は一部精査中）
- (7) 「保育所等の整備量の推移」は、日野市では平成 29 年度以降、認可保育所等の新規整備を行い、合計 56 施設ある。認可外保育施設を含む日野市内の利用定員の推移では、新規整備を行った平成 29 年度以降、拡大傾向になっており、令和 6 年度時点で 4,450 名となっており、申込者数をカバーできる整備量である。
- (8) 待機児童数は平成 29 年度をピークとして減少傾向である。令和 6 年度の時点で 26 人となっており、年齢的に主に 1 歳児、地域的に豊田・多摩平・日野地域に偏りが出ている点に特徴がある。一方で、丘陵地の 4・5 歳児では空き定員も散見されるようになってきており、待機児童数の年齢的、地域的な偏りの傾向は今後も続いていくものと見込まれる。

Q1：個別施設計画の計画期間は 2052 年までと、中長期の計画となっているが、中長期の保育ニーズの見通しはどうでしょうか。

A1：市ホームページにも公開されている令和 4 年度日野市人口ビジョンによると、0 歳から 4 歳ですが、2025 年の 45 年後である 2070 年には、5,256 人となると見込まれており、中長期的には、子どもの人口は減少していきます。一方で保育所への申込率も上がっていくため、保育ニーズは当面は現状と同程度かそれ以上になるものと見込まれます。しかし、長期的には、大幅に子どもの人口が減少していくことも見込まれますので、保育所への申込人数も減っていくものと考えております。

日野市人口ビジョンと国立社会保障・人口問題研究所の推計（両統計とも 5 歳区分のため 0 歳から 4 歳の人口推計を参考）では、2025 年から 2050 年を比較すると、日野市の人口ビジョンでは、0 歳から 4 歳の人口は 13%減少する推計となっております。これを認可保育者への申込状況に反映して推計した場合、令和 6 年が 52.3%になり、これが横ばいと仮定して計算した場合、2024 年は 4,158 人だった申込人数が 2050 年には 13%減の 3,618 人まで減少する可能性があります。申込人数としては 540 人が減少すると出ております。この 540 人を保育施設の規模で換算すると、公立保育園、1 園平均定員が約 100 人となりますので、5 園分の規模に相当することになります。

4. 日野市の保育所等の課題

- (1) 日野市では、令和 6 年 1 月頃に日野市内の保育所等にアンケート調査を実施した結果、現場の保育士の困りごと、悩み事について、一番が「配慮を要する子への対応」であった。保育の質の維持向上のために現場の保育士の皆様が悩みながら、日々の保育にあたっている。
- (2) 保育施設の施設長の課題として、一番多かったのが「人材確保・人材育成」であった。約 4 割と圧倒的に多い結果となった。人材不足により保育環境に余裕がなくなり、保育の質の維持に支障をきたす恐れがあるほか、利用定員の維持が困難になる恐れも懸念される。

5. 保育に関する社会状況

(1) 不適切保育による保育の質への関心の高まり

保育の質の維持向上の大切さも求められている。特に、令和 4 年度には、全国的に不適切保育の報道があり、また、市内の認可保育所においても、園児の虐待等も発生し、市が改善勧告や改善命令を出すに至っていることから、保育内容保育環境等の「保育の質」への関心が高まっている。

(2) 質の向上のための職員配置基準の改善

令和 6 年度から 5 歳児の職員配置の基準について、30 対 1 から 25 対 1、3 歳児は 20 対 1 から 15 対 1 へ改善が図られ、近いうちに経過措置も終了する見込み。また、令和 8 年度までに 1 歳児の職員配置基準を 6 対 1 から 5 対 1 へ改善を進めるとされている。

日野市では 1 歳や 3 歳児の配置基準は、改正後の基準が運営費の加算の条件となっており、民間保育園では、概ね大きな影響はないが、5 歳児については、民間と公立問わず、影響が生じるものと見込まれる。具体的には、基準を超える場合には職員の追加配置が必要となりますが、追加配置ができない場合は、定員を縮小せざるを得ない。人材確保が難しい状況下において、定員を縮小する園も出てくることが見込まれ、待機児童への影響も懸念される。

(3) 保育所の多機能化の観点

こども家庭庁において、保育所と児童発達支援事業所などとのインクルーシブ保育の推進や地域子育て相談機関の創設、子ども食堂の取り組みなど、保育所等の多機能化に資する様々な施策が進められている。さらに、「こども大綱」においては、「病児保育の充実を図る」とされており、日野市としても、在園児以外の支援など、保育所の多機能化の観点を踏まえて、保育所の今後について検討していく必要がある。

(4) こども誰でも通園制度（仮称）」の創設

同制度は、0 歳児から 2 歳児の 6 割を占める未就園児に対して、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず、時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園給付制度である。令和 8 年度から子ども・子育て支援法に基づく、新たな給付制度として実施される予定である。各自治体においては、実施までに計画的な受け皿整備に努めることとされており、保育園の多機能化及び未就園児への支援の必要性の観点からも、日野市として整備量確保に努めていく必要がある。

(5) 多様な支援ニーズへの対応

「こども未来戦略」や「こども大綱」では、障害のある子どもや医療的ケア児、外国籍の子どもをはじめ、様々な文化を背景にある子どもなど、特別な配慮を必要とする子どもを含め、一

人一人の子どもの健やかな成長を支えていくとしており、保育所として多様な支援ニーズに対応していくことの必要性が示されている。今後の保育所のあり方を考えていく際には、整備量として充足されているかどうかの視点の他、多様な支援ニーズへの対応という視点も考慮し、方向性について検討していく必要がある。

(6) 保育人材の不足

こども家庭庁によると、全国的に保育人材が不足していることが示されており、保育人材不足の中においても、保育の質の維持向上に努めるとともに、多様な支援ニーズに柔軟に対応していける多機能化が求められていると考えられる。

6. 日野市らしい幼児教育・保育のあり方に関する検討結果

日野市幼児教育・保育のあり方検討委員会

この報告書では、①幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続に関するとして、幼児教育・保育連携推進プロジェクトチームの取組の充実や、近隣に所在する園・学校の連携を充実など。②特別な配慮を要する子ども、外国人等への支援に関するとして、巡回支援の充実や、園での受け入れ体制整備への支援など。③公立幼稚園のあり方など、日野市らしい幼児教育・保育の実現に向けた方策に関することとして、障害のある幼児も含めた行き場のない子どもが生じないための方策として、多様化するニーズに保育施設が答えていくためにも、保育所型認定子ども園を東側に設置することの検討など、検討委員会で策として示された。

意見： 保育ニーズ推移では、0歳児は減ってるが1歳児が増えていることが顕著であると思いました。保護者の年齢も上がり、医療も充実してきているので、酸素をつけてもらったり、少し小さく生まれた子達が大きくなって、少し手助けが必要な子が増えたり、そういった医療的なニーズがすごく増えている。

また、ネット情報や診断等、保護者が自身の子どもに配慮が必要と理解する機会も増え、保護者から少し配慮してほしいとの依頼もあり、その結果、保育士の困りごととして、「配慮を要する子への対応」が顕著に出てきていると考えます。それに伴って、園長先生たちも「人材確保・人材育成」で困っているのかなと思いました。

これら保育所等の課題を、日野市がバックアップし、ぜひ充実していただきたい。

意見： 配慮が必要な児童が増えている中で、人員を増やせないことで事故が起きるとそれは園側や市の責任になってしまう。今回、みなみだいら保育園民営化が議題に上がっていますが、公立保育園よりも私立保育園になった方が、人材を柔軟に追加することは難しいんじゃないのかなと個人的に思っています。

意見： 公立保育園では、加配の相談をした際に親身になって対応して下さるなど、先生との信頼関係を築くことができました。公立保育園が民営化になって、このような支援が受けられるのか心配です。民間の社会福法人としての利益のところの違いというのは感じており、民営化することに関しての、不安は個人的に感じている部分があります。そういったところはもっと明確化になったり、子どもの目線でも、いろいろ考えていただきながら、慎重に進めていただければありがたいなと思っています。

意見： 民間保育園も公立保育園と同様に、その目の前にいるお子さんが幸せに安定して、おうちにいるときと同じ温かい雰囲気の中で、自己を認められながら見守るというところでは、何も違いはないと思っています。

民間保育園の中にあっても、やはり気になるお子さんは、増えているなというのを実感しています。今、目の前にいるお子さんが困っている、困っているかもしれないということを、どれだけ私達が第三者的にそれを受けとめて、それをどうやって保護者の方に伝えようかというところから始まっています。

必ず診断をつけてもらってくださってという気持ちも全然ないですし、診断名は全く関係なく、専門的な分野からこのお子さんにとって、得意な分野はここです。でもちょっと苦手かな、ちょっと誰かの手伝いがあると、少し前に進めるんじゃないかなという、保育や療育という両面で意見を出し合って、目の前にお子さんが少しでも不安なく、将来的に自分の力で生きていくために必要な生きる力が身につけることができればと考えています。

先ず第一歩は、保護者との信頼関係を作ることで、お子さんのために何ができるか考えられるのかなあと思っています。現場の職員もずっとそれを考えています。自分が若いときは、何か楽しい、子どもがかわいいっていう感覚でしたが、今の若い先生たちは本当に苦勞して頑張って、何とかしなきゃって、キャリアアップもしながら、保護者との信頼関係も築きながら、いろんなことを考えて、一生懸命やっているっていうことを、何か皆さんにうまく伝えられたらいいなと思いながら、皆さんのご意見聞きながら感じていました。

意見： 18年間日野の保育園を心理士として巡回しています。「たかはた保育園」が最初に民営化された時に、子ども・子育て支援会議に出席していました。その時、保護者と日野市で様々なやりとりされる中で、機能移転との難しい言葉が、なかなかみんな理解できず、大変だったなっていうのを今、お話を聞いていて思い出します。

でも、その後の2園の場合は、そのようなこともなかったようですが、実際に巡回相談に行くと、公立保育園から民間保育園への移行は、ダイナミックな変化なので、丁寧に渡していくことがとても大事だなという風に思っています。最近は1年前ぐらいから両方の先生と一緒に保育をされ、うまく連携してやっていくような様子も見ますと、当初に比べ民営化が割とスムーズに移行している感じがしております。

私は民間保育園や公立保育園、認証保育所、最近は小規模保育園も行っていますが、民間保育園の先生も、本当に子どもをよく見て子どものためを思う意識が、民間保育園だろうが公立保育園だろうが、全然変わらない。本当に熱意があって、皆さんよく子どもさんのこと、見てらっしゃいます。

ただ、民間園さんの大変なところは、若い保育士さんが多く、公立保育園のような保育力の継続がなかなか難しいってところが園長先生方のご苦勞だと思っています。民間保育園でも長く努めてくださっている保育士さんがいらっしゃるところは、やっぱり1つ違う。私たちも巡回しながら、保育士さんの保育力を上げる、それに少し一助になるように、頑張っています。公立も民間も良さを、お互いが共有されて、学び合っていく土壌が日野市にはあると思います。

意見： 皆様から、沢山のご意見いただきました多様な支援ニーズへの対応ですが、別の会議体でも特別な配慮を要するお子さん、外国人のお子さんに関することは、大きなテーマになっています。保育園も幼稚園も公立でも私立でも一番の課題と思います。

また、今、子ども計画を策定していますが、この計画を作るにあたって、就学前の保護者の方にもアンケート調査をしております。「日常悩んでいること気になることは何ですか」という質問に対して多かったものが、発育や発達とお答えになられた方が39.1%でした。これは継続的に調査していますが、5年前の調査と比べると、8.6ポイントアップです。あともう1つは、子どもの教育、こちらが36.3%、こちら5年前から8.7ポイントアップしています。やはりお子さんの保育内容とか質にかかることが、今非常に関心が高いと市としても受けとめております。

この問題は、市のすべての教育保育施設が取り組む課題だと思っておりますので、頂いたご意見などを踏まえながら、しっかりみんなで力を合わせて、やっていきたいと思っております。

あともう1つ、保育所の多機能化の話がありました。先ほど保護者さんがおっしゃったように誰でも通園制度も多機能化の1つですが、保育園だけで多機能化を実施すると言っても先ほど人材の問題もあり、いろいろ難しい面もあるかなと思いつつ、ただちょっと広く子育て支援施設というふう考えたときにはいろんな子育て支援施設がある中で、多機能化していく方策があるのかなと思います。例えば保育園だけで全部担うのではなくて、保育園と学童クラブや児童館などいろんな子育て施設が例えば複合化することによって、保護者にとっても、包括的なサービスを受けられるのかなっていうことをちょっと感じました。

意見： 公立保育園と民間保育園の先生たちが集まり様々な一緒に課題を考えていく「公民交流事業委員会」で、先週の金土日に「保育フェア」を開催しました。何年も一緒に開催する中で、お互い声を掛け合い、手際よく短時間で準備も行えました。公立保育園とか民間保育園とか、関係なく日野市の子どものために一緒に働いている仲間であるといったことが実感できた3日間でした。

また、公民交流事業委員会を毎月開催していますが、公民に関わらず、園長先生方だけでなく、現在は、主任の先生、副園長先生が参加して、様々な現場の声を聞かせていただいています。前回の9月の会では、プール遊びでの暑さ指数や塩分補給をどうしているかなど、他の保育園の取り組みについて充実した意見交流ができました。今後も一緒に交流することで、日野市全体の保育の質の維持向上に努めていきたい。

意見： 私は園長になる前の保育士の時に「とよだ保育園」の民営化に関わっており、引継ぎの時には、民間保育園の先生と一緒に保育をしました。民間だから、公立だからってことは関係なく、年齢が上であった私も、一緒に組んだ若い先生から様々なことを教えて頂き、またお互い意見を出し合いながら子どもたちの保育にあたってきたというのが実感としてあります。

また、日野市の公立保育園で作ったマニュアルなどが、民間保育園さんにも渡ることによって日野市全体の保育の質の維持向上に繋がっているのではと思います。

なお、各保育園ではそれぞれの良い特徴もあります。保護者がそういうところも見えて頂き、好きな保育園を選んだりすることも必要だと個人的には思っております。

7. 公立保育園の状況

- (1) 民間保育園の運営経費は、保護者負担の保育料の他、国や都や市の負担金・補助金によって賄われている。(イメージとして4分の1ずつ)市の支出全体のうちの3分の2は国と都の負担となっており、3分の1は市の負担である。
- (2) 日野市立保育園の運営経費は、大半が一般財源である。4分の1が保育料とすると、4分の3が市の負担である。よって、平成29年度以降、民間保育園は5施設増えたが、市の負担割合は大きな変更はなく、その分抑制できた予算は、多様な保育ニーズへの対応などに使用できたことになる。
- (3) 9園ある公立保育園のうち、一番古い「ひらやま保育園」は、認可年月日が昭和41年で約60歳である。一番若い保育園は「しんさかした保育園」は約46歳である。公立保育園の建物の状況は、各園の耐震工事の方は順次実施している。
- (4) 公立保育園の定員と在籍児童数は、一部の公立保育園では、利用定員の弾力化という定員の空きスペースを活用して、定員を超えた受け入れを一部の園で行っていることにより、定員充足率が100%を超えている園がある。ひらやま保育園は、区画整理が進んだことの影響もあり、定員充足率が増加傾向にある。あらい保育園の定員充足率は減少傾向にある。未就学児人口減少と周辺に民間保育所が多いことが主な原因と考えられる。また、もぐさ台保育園の定員充足率は減少傾向にある。未就学児人口減少と丘陵地にあることの立地が主な原因と考えられる。

8. 公立民間保育園の特徴及び今後の役割

(1) 持続可能な保育サービスのあり方

厳しい財政状況のもと、保育ニーズが多様化し増加していくなかで、これまで以上に効果的かつ効率的な施策展開が求められる。そこで、公立と民間お互いの特徴に着目し、最大限活かすことで、今後の保育ニーズへ対応可能な保育サービスの体制を築いていく必要がある。

(2) 民間保育園の特徴と求められる役割

① 保育サービスの提供及び待機児童の解消

- ・ 日野市における保育サービスの担い手として、長い間、保育を必要とする世帯に必要なサービスの提供を行ってきており、蓄積された経験とノウハウがある。
- ・ また、新たな保育施設整備、利用定員の弾力化による受入枠の拡大、緊急1歳児受入事業による1歳児枠の拡大など、待機児童解消に向けた取組みを市と協働で取り組んできた実績がある。
- ・ 今後は、未就学児人口の減少も予測されているが、蓄積された経験とノウハウに基づき、引き続き保育の質の維持向上を図りつつ、保育サービスの提供を行っていく役割がある。

② 多様な保育ニーズへの対応

- ・ 民間保育園では、多様化する保育ニーズに柔軟かつ迅速に対応してきた実績がある。具体的には、一時預かり事業、子育て広場事業、病児保育事業など。
- ・ 民間保育園の運営費は、国及び都の財源があり、市負担の軽減につながるため、その分の財源を民間保育園への多様な保育ニーズへの対応に使用していくことが可能になる。
- ・ 今後も、誰でも通園制度など多様化する保育ニーズへの対応は求められることになる

ため、民間保育園を中心として、サービスの拡充を図っていく必要がある。

③ 特色溢れる保育環境の充実

- ・ 保育の基本原則を踏まえた上で、地域の実情に合わせて、創意工夫を図った特色豊かな保育環境の提供に取り組んでいる。

(3) 公立保育園の特徴と求められる役割

保育に関する社会状況、日野市幼児教育・保育の在り方検討委員会の検討結果、公立保育園の特徴等を踏まえると、公立保育園には次の役割が求められている。

① 保育需要を踏まえた柔軟な定員設定

- ・ 未就学児人口減少に伴い、定員割れによる民間の運営悪化が懸念される。そのため、未就学人口の増減に合わせて、民間への影響を最小限にし、持続可能な保育行政を実現するため、定員の調整弁としての役割がある。
- ・ 例えば、保育需要が少なくなった丘陵地などでは定員数を減少させ、保育需要に偏りがある駅前地域では利用定員の弾力化を図るなどを行っている。今後においても地域特性に応じた定員調整の役割は続けていく必要がある。

② 日野市の標準的な保育水準の確保

- ・ 公立保育園は昭和30年代から認可保育所として運営しており、また、保育士・栄養士・看護師など関わる職員の経験年数が比較的長い傾向にある。また、公立保育園は9園あり、市全体の約1/5の保育の受け皿を担っており、長い間、平均的な保育水準の指標とされてきた実績がある。
- ・ 公立・民間を問わず、保育などに関する蓄積されたノウハウはあるものの、平均的な保育水準としての蓄積された経験は公立ならではのものであり、民間保育園にとっても有事の際などに参考となるものである。今後において仮に園数が少なくなったとしても、実績に基づく指標と経験は公立ならではの役割と認められる。

③ 日野市全体の保育等の質の向上

- ・ 公立・民間を問わず、個々に質の向上に向けた取り組みは行われている。
- ・ 公立保育園では、公立保育園の全体研修に民間保育園も声掛けしているほか、公民交流委員会で民間と連携した研修や情報交換を実施するなど、日野市全体の保育の質向上に取り組んできた実績がある。
- ・ また、保育士のほか栄養士や看護師等においても、民間との情報交換・連携などを定期的に実施し、日野市全体の食育推進や保健衛生の推進等に取り組んできた実績がある。
- ・ 実際に新型コロナウイルス感染症などの有事の際は、公立保育園の取扱いやマニュアル等が共有され、民間保育園の取扱いの参考となった実績もある。
- ・ そのほか、公立保育園の特徴として、子ども家庭支援センターなどの他の公的機関との連携が容易であることが挙げられる。
- ・ 食育などにおいても、保護者向け他、子育て広場などでの地域向けに実施するなど、日野市全体に対する支援実績がある。
- ・ 今後においても、民間の保育所や公的機関などと連携し、日野市全体の保育等の質を向上させていくハブとしての役割が期待される。

④ 特別な配慮を要する子ども

- ・ 公立保育園は、障害のある子ども、医療的ケア児、外国籍の子どもなど、特別な配慮を

要する子どもを積極的に受入れ、保育を提供してきた実績がある。また、食物アレルギーなど、食事に関して特別な配慮を有する子どもについても積極的に受入れ、給食を提供してきた実績がある。

- ・ 民間保育園においても、近年、特別な配慮を要する子どもの受入れは拡大傾向にある。
「こども未来戦略」及び「こども大綱」を踏まえると、今後は、「多様な支援ニーズへの対応」を市内で公民を問わず、更に広く実施していく必要がある。そのためには、公立保育園で蓄積された経験を日野市全体で共有し、どの園でも同じ質で受入れ可能な環境を構築していく必要がある。
- ・ 令和6年度には、医療的ケア児受入れのためのガイドラインの策定を検討しており、公立保育園のノウハウを参考に進めていくことが想定される。

⑤ 巡回指導

- ・ 日野市内の保育所等の質の維持向上のために、現在、元公立保育園園長が巡回支援指導員として、市内保育所等を巡回し、保育の質の維持向上に努めている。
- ・ 上述した豊富な経験に基づく指導のほか、民間園が持つ質の高いノウハウを他園に還元していく仕組みなど、公立保育園出身の保育士ならではの役割と認められる。

(4) 小括

- ・ 以上から、多様化する保育ニーズへの柔軟な対応を踏まえた今後の保育サービスの提供については、民間保育園を主として行っていくこととする。
- ・ ただし、日野市全体での保育等の質の向上や柔軟な定員設定の観点から、その観点の限度において、一定数の公立保育園は今後も必要となる。
- ・ 公立と民間がお互いの特徴を活かし、相互に補完し合って、一体的に日野市の保育サービスの提供を行っていく。

9. 公立保育園の今後

全体的な考え方として、各園の個別の方向性を考えるにあたっての基礎となる考え方

- (1) 近い将来、未就学児人口の減少に伴う保育需要の減少があることを踏まえると、民間の認可保育所の定員割れによる運営悪化が懸念される。その際、市内保育所などの最適化の観点から、保育需要に合わせた利用定員の縮小や施設の統合などにより調整を行っていく必要が生じる。日野市として持続可能な保育サービスの観点からいたしますと、財政負担も考慮し、公立保育園から民間保育園の運営主体移行や、公立保育園の規模縮小、民間も含めた施設統合などの検討については、今後必要となる。
- (2) 一方で、保育所には今後様々な役割が求められる。「こども誰でも通園制度（仮称）」や病児保育などの保育所の多機能化、医療的ケア児の多様な支援ニーズへの対応の他、保育全体の質の維持向上などについて、日野市全体で取り組んでいく必要がある。その際には、公立保育園が中心となって、民間保育園や地域を巻き込みながら進めていくということも必要になる。地域ごとの保育需要や保育施設の状況を踏まえ、上記視点を総合的に考慮し、判断を行っていくことになる。
- (3) 以上の全体的な考え方を踏まえて、各園の今後の方向性について、これから検討していく。詳細については、未作成となっております、第2回目で皆様にご説明させていただき、ご意見をいただければと考えている。

意見： 私は日野市に来てまだ6年目の園長なので、昭和 30 年代から公立保育園ができて、今までに至るという細かい経緯については存じ上げないですけれども、今回この専門部会に参加するにあたって、先輩方の日野の園長や園長会の会長に、様々なお話を伺いました。昭和 30 年代から公立の保育園が設置されて、もちろん民間保育園と一緒に、今まで力を合わせて日野市の子ども子育て支援を実施してきたという実績があるということを知りました。その中で本当に公立保育園がお持ちの様々なノウハウを教えてくださいながら今日に至っているというお話も伺いました。

現在に至ってもこの市全体の保育の質を向上させる機能が、公立保育園と民間保育園が連携することで、永遠と続いていくのだなというのを、今日の説明を伺っても感じました。先輩の園長方から聞いたお話と内容が一致することも分かりました。

ぜひ、これからも公立保育園は残していただき、新型コロナウイルスの時の感染症マニュアルを民間保育園に提供して頂き、台風が来たときの災害のときの対応の仕方とか、今後も様々なことを教えていただきたいなと考えております。

意見： これまで東日本大震災や台風 19 号、新型コロナウイルスなど、様々な有事により通常の保育が難しい状況になることがありました。公立保育園同士で相談でき、またその相談先が市役所の保育課であることは強みであると思っています。

このような困難を乗り越えるための情報や方策を、民間保育園の皆さんと共有できることで、日野市全体の保育を支えていると思っています。公立保育園を残しつつも、民間保育園の先生方と一緒に日野の保育を作っていきたいと考えています。今後もよろしく願いいたします。

意見： 公立保育園の良さは、様々な年齢層の職員がいることだと思います。私が新人の時は、0歳児の担任になりました。学校出て、我が子もいるわけでもなく、どうするんだろうと思いながら、一緒に組んだ先生が1つずつ教えてください、その後は自分が新人や若い先生に教えていきながら、保育をしてきたところ、そんな様々な年齢層の職員がいることが強みと思います。

公立保育園の職員研修会の1つに、0歳児保育分科会があります。0歳児をやったことのない先生が多い中でも、異動で0歳児園に行くと担任になることもあります。0歳児は特別なところもあるので、そこをしっかりと伝えていくことが大切です。この0歳児保育分科会の活動の中で、私の保育園の今年の新人が、0歳園に見に行かせて頂きました。帰って来てこんなことがあったんです園長先生、なんて話を聞くと、そうやって、受け継がれていってそれが自分の力となり、それをまた他の方に伝えていくことで、みんなの力になっていくっていうのが、大切ななと思いました。

意見： 「育ちあい」という保育園の巡回相談、その成り立ちをご紹介します。私たちは、18年前に市役所に呼ばれました。当時、公立の保育園は11園で、保育園の保育士さんが気になる子、配慮の必要な子が沢山増えて、とても疲れているので、何かそれを助ける事業ができないかと相談されて、巡回相談をご提案しました。

日野市は割と早く巡回相談を始めました。その時に紹介されたのが、保育士さんの分科会の1つである「育ちあい分科会」でした。育ち合うというのは子どもも、それから保育士も皆が育ち合うという意味でつけられたと聞きました。

その「育ちあい分科会」は各園から1人ずつ出て11人で構成されていました。毎月行われる分科会に行って一生懸命みんなで考えて、今の形ができたと思います。

その当時は年に8回公立保育園を巡回させていただき、行けば子どもたちの顔も覚えていし、先生方とも親しくなっていました。でも最初は、巡回相談って何か日野市のえらい人が、私たちに命じて、何か良くないところを見つけに行って、それを告げ口するんじゃないかと言われて、非常に冷たい扱いを受けたことも覚えています。けれども、そうやっている間にいろんな研修をして、やっぱりここで協力をしていこうというような、お互いに気持ちが芽生えたときに素晴らしい、日野市ならではの巡回相談になりました。数年たって、オール日野市の子どもだからというので、民間保育園、認証保育園と今は小規模保育園にも広げていったという経緯です。

私どももNPO法人としてこういうことをやっているのは、全国的にも少ないと思います。私たちが今できているのは、公立保育園の「育ちあい分科会」と一緒にやって、その中でいろんな研修をし、園内カンファレンスをおやりになった。本当に積み重ねていったものが、今、民間保育園に何うときに活かされているんだと思います。この巡回相談も公民が協力して、今の形があると思います。

したがって、保護者の方々は民間保育園になったらとご不安かもしれないけれど、様々な場面で公立保育園と民間保育園が協力できる土壌がすでにあるというふうに、保護者の方々も思いになってください。私は全部の民営化を見てますけど、本当に回を重ねるごとに、うまくいっているんじゃないかなと思います。なので、そのところ、お伝えしたいかなと思ってちょっとマイクをお借りしました。

意見： 学童クラブも民営化が進み、半分ぐらいはもう民営化しています。うちの子が行っている学童クラブも民営化になっています。民営化になる前は、昔ながらの学童クラブがいいんだというOBの方がいたり、いやいやフレキシブルになるんだよという方もいたり、実際両方の意見をたくさん学童クラブの連協員に聞きました。

私の上の子は保育園を0歳から6年通っていました。朝は起こして、ご飯食べさせたら保育園、お迎えに行ってお風呂入れてご飯食べたら寝るだけみたいな感じで、私はほぼ寝ているときの子どもしか知らない。平日の昼間は、ほとんどの時間を保育園さんをお願いをして、大きく育てていただいたっていう思いが結構あります。

そういった中で、公立保育園と民間保育園のどっちが良いのかと言われると、多分、保護者はどちらかではなく、しっかり子どもを見てくれて、安心できる場所だったらそれでいいというところが、働く親たちの根本と思います。

民間保育園になってもしっかりマニュアルがあることや、一定の基準は必ずクリアしていますから民間保育園にお願いができるとか、しっかり引き継ぎがありますと保護者に丁寧に伝えていただく。また、子どもたちにも違う先生に変わっても今までと変わらずに毎日過ごすことができるんだよ、安心してねっていうのが、子どもたちにも理解できると、切り換えスイッチのところで子どもたちが不安定になるっていうお母さんたちの不安が少し減ったりすると思います。

あとは逆に、もしかしたら預かり時間が少し長くなるかもしれないよとか、ポジティブな面を出していただけると、保護者もじゃあちょっと一緒に頑張ってみようかなと思

えるのではないかなと思います。

若い先生たちでもアグレッシブな先生は、すごく意欲があって、すごいですねっていうぐらいの熱意がある方もたくさんいるし、ベテランの先生は、すごくいろんなご意見をいただいて、こんなこと知っているの、知らなかったみたいな意見をたくさんもらったりも親からするとあるので、そんないいところをたくさん受けられるんだよっていうところを推してもらえると、保護者が少し安心して、移行していけるのかなと今ご意見をたくさん聞きながら思いました。

意見： 保護者としての意見で、保育を入れるときに自分でどういう風に保育園選んだかなとちょっと思い出しながらお話をお伺いしていましたが、保育園を選ぶ時点で公立保育園にしよう、民間保育園にしようっていう目線で、見ていなかったなと正直思い出したところです。実際は、安心できる場所なのかとか、仕事の通勤時間でしたり、通えるところなのかっていうのを判断しながら、保育園を選ばせていただいたなっていうのを思い出しながら聞いておりました。

いろんなお話をお伺いして、民間保育園、公立保育園に関わらず、先生方は本当に注力して、子どもたちのことを見て頂いている印象を受けたところです。先ほど話があったように、保護者の目線としては何が不安なのか、何がどう変わるのかが、ある程度明確にならないと不安感が先走ってしまう。そういった不安があると子どもたちも敏感に感じているところがあるので、不安に覚えてしまう。民営化するにあたって、何がメリットで、何がデメリットなのかを明確にしてくださいとか、子どもたちにも安心できるところなんだよと話していただくことは、とても大切なかなと思っています。公立保育園とか民間保育園っていう目線で保護者としては、そこまで強く、選ぶ1つの要因にはなってなかったかなっていうのが正直、思い出してお話を伺いさせていただきました。